

# 気仙沼への

第6号  
2010.9

東京都台東区東上野6-1-1 (社) 漁業信用基金中央会内 地域活性化研究会  
TEL: 03-3841-4035 E-mail: kesenumabureau@yahoo.co.jp



尾形将「気仙沼の秋刀魚」(2006)

## 「ふるさと納税」応援はこの組織の原点

日出 英輔

去る7月、気仙沼ビューローの有志一同は、『「ふるさと納税」についての意見表明』を気仙沼の関係者に送付しました。この主旨は、ふるさと納税の応援の意思表示です。

というのは、一昨年秋、ふるさと納税に対する応援話がきっかけでこの組織結成が進んだという経緯があります。さらに、先般6月の定例の勉強会でこの話が熱心な議論のテーマになり、それでは意見表明しようということになったのです。

意見表明の一部を再掲します。

「ふるさと納税は全国の地方公共団体等が熱心に取り組んでおり、東京圏等でも県人会やふるさと会、同窓会等を活用して様々な取り組みが行われていると報道されていますが、気仙沼の場合、このような取り組みが行われているとは聞いておりません。私達気仙沼ビューローのメンバーのみならず多くの気仙沼関係者等が歯がゆい思いをしているといっても過言ではありません。

遠くふるさとを離れて生活している者は、常に元氣なふるさとを念じ、そして何かふるさとのために出来ることはないかと考え続けています。ふるさと納税は、ふるさと気仙沼とふるさとを離れている者との絆を強くすることが出来る仕組みであると受け

止めています」

そして意見表明では、この組織内で議論してきたいくつかの具体的措置を提案しています。

この意見表明後、菅原市長をはじめ市役所職員の方々が具体的な検討に入ったとうかがっています。素早い対応を感謝しています。

今この組織のメンバーは、お互いに今年はメンバー全員がふるさと納税をしようと話し合い、東京圏等の関係者にふるさと納税を呼びかけよう等とその具体的方法を検討しています。

ふるさと納税は、意見表明でも述べていますが、市が中心になりつつも、ふるさとの諸団体が連携して行い、ふるさとを離れた我々も精一杯応援する形が一般的だし、望ましいことと思っています。

さあふるさと気仙沼の人!市民ぐるみでふるさとを離れた気仙沼人にふるさと納税を語りかけ、そしてふるさととの絆を強めさせていただきませんか。

最近の報道は、口蹄疫で大打撃を受けた宮崎県に対してふるさと納税が大盛況だとしています。遠くふるさとを離れた宮崎人の願いが結実しているのでしょう。

気仙沼ビューローのメンバーも、ふるさと活性化に対して宮崎人と同じ思いをしているのです。

(ひので・えいすけ) 昭和16(1941)年生まれ。前参議院議員。平成17年、地域活性化研究会を立ち上げ、全国の農林水産業・食品産業を中心とした地域おこしの支援をおこなっている。

## 徳仙丈山へ登って

尾形 将

海と山に囲まれて風光明媚な気仙沼。

市内の太田で生まれ育った私には、子供の頃裏山の『安波山』が遊び場であり、頂上からの眺めのすばらしさ、そして山桜や山つつじ、山栗や山葡萄、山ゆりや桔梗の草花、沢蟹等々。多くの自然の恵みをこの山から得ました。

気仙沼を離れて既に46年が経過した今でも毎年1～2回は必ず帰省し、その度に故郷の海山に接してリフレッシュしています。(最近は気仙沼の風景を絵画に描いています。)

このように気仙沼の海・山は私に子供の頃から65歳の今日迄も、数多くの思い出をプレゼントし続けてくれています。

そんな私が昨年手にした気仙沼の観光案内書には、海と魚に関連した観光スポットの他に『山』の新名所『徳仙丈山のつつじ』がプラスされており、大変興味を覚えました。

その後、この『徳仙丈山のつつじ』の噂を度々耳にし、『この目で一度観てみたい!』との想いが強くなって行きました。

今年の5月に思い立って帰省し、車で初めて徳仙丈山を目指しました。

駅前の観光案内所で山への道順を教えてください、コンビニでお茶とおにぎりを買って、いよいよ出発。

神山川沿いの山道を直進すること約30分。

標高約500メートルで登山口の駐車場に到着。変化に富む山里風景と森や林の鮮やかな緑を楽しみながら順調に走行出来た往路でした。

この登山口から徳仙丈山の頂上までは徒歩約40分の行程です。途中、鶯等野鳥の囀りを聞きながら大きく立派なつつじの古株が群生するツツジ坂を登ること約20分、第1展望台に到着。こ

こで汗を拭きながら、眼前に展開する西部や北部の山々と咲き始めた山つつじ等の眺望をしばし楽しみました。

そこから更に東へ。途中山つつじやレンゲツツジが豪華に咲き競う広大なツツジヶ原を左に眺めながら歩くこと約10分。第2展望台に到着。そこから東の景色を楽しめるはずが、この日は海側に濃霧が発生して、リアス式の海岸線や大島の島影が全く観えず、残念!

第2展望台からいよいよ山頂へ。落葉樹が繁茂する北東側の樹海の中の山道を登りながら、本吉方面からの道が交差する祭り広場に到着。

広場の木陰で一息入れて、山の手入れをされている方から貴重な話を拝聴した後、ツツジの蕾がほころび始めた東側尾根道を山頂に向けて最後の頑張り。そして初登頂。山頂の神社に詣で、眼下に広がる華麗なつつじの絨毯と視界360度で圧倒的魅力的な大パノラマを堪能しました。

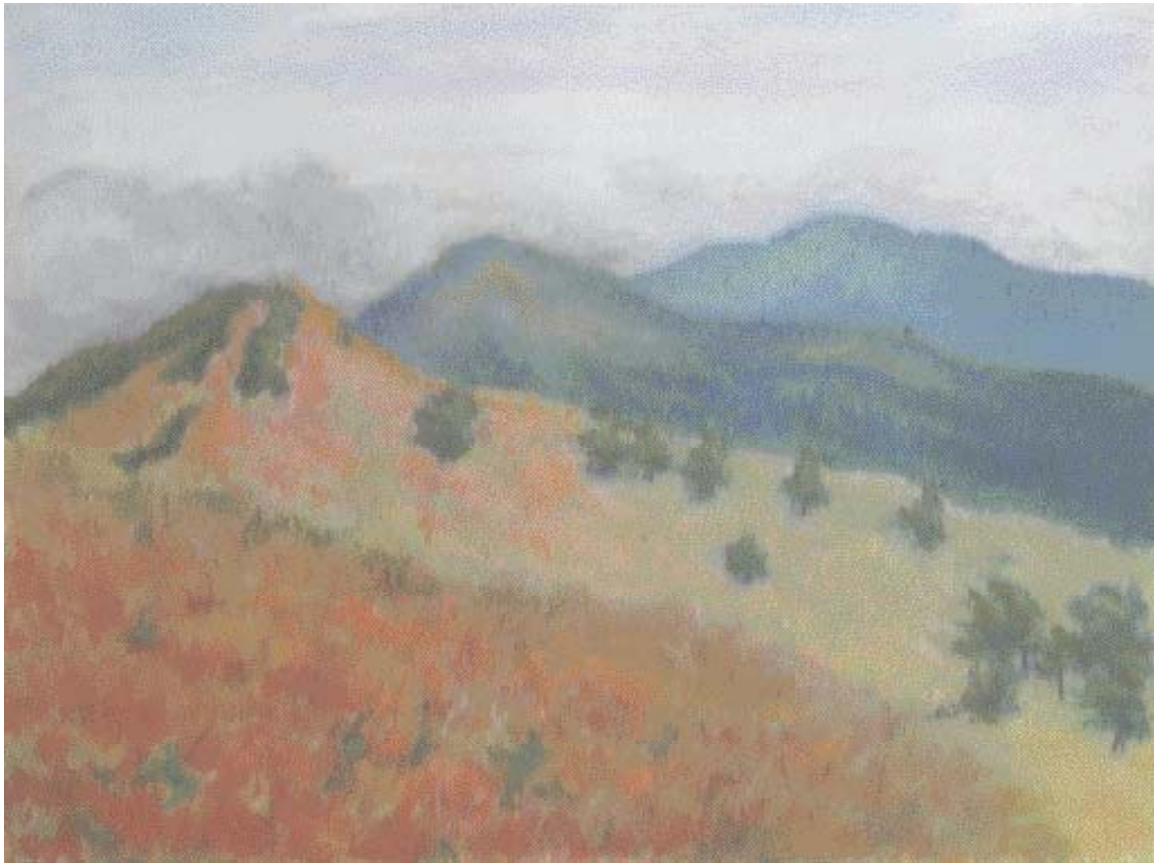
ここでも野鳥の囀りと風景スケッチを楽しんで、結局2時間ほど山頂に滞在しました。

帰りは北側の『ツツジ街道』経由で下山。大きな古木ツツジが道の両側に華麗に咲き誇る素晴らしい登山道でした。

駐車場からの帰り道、室根側へ迷い込むハプニングはあったものの、非常に満足な徳仙丈登山でした。来年も花の見頃と天気を吟味して、又登山しようと思います。

今回、私が徳仙丈山で出会った登山者の多くは、お隣の岩手県や同じ宮城県でも内陸方面から来られた方々で、気仙沼市内の方は数少なかった様に思います。

これまでの私がそうであったように、多くの方は気仙沼といえば海と魚に注目してしまうのでは



尾形将「山とつつじ」(2010)

ないでしょうか。気仙沼にいる方でさえ、これ程の山と山つつじがごく身近に存在しているのを知らないと聞きました。身近すぎて『たいしたことない』と考えられているのかもしれませんが。もったいない話です。

私が感じた魅力は以下の通りです。

#### ①つつじの大群落

5月中旬～6月上旬に推定50haの山肌を一説に50万株とも250万株とも言われる自生の山つつじとレンゲつつじの群落が、紅やオレンジ色に染め上げます。多くの地元の方々が、長い間地道に手入れを続けてこられ賜物です。

#### ②抜群の大眺望

登山道途中に第1、第2展望台、そして山頂と随所に眺望の優れた箇所が存在し、西に残雪抱く栗駒山。北に大森、室根、五葉等北上山地の山々が連なり、更に奥には最高峰の早池峰山が。東には遥に太平洋の大海原とリアス式海岸が美しい気仙沼湾。南にはテレビ塔の

ある長森山、遥か洋上に金華山。そして南西方向に実り豊かな大崎平野等を遠望出来ます。

#### ③緑豊かな森林浴と野鳥のさえずり

ぶな等緑豊かな落葉樹が自生し、うぐいす等野鳥のさえずりも多く、登山自体がそれ等を存分に楽しみながらの森林浴となります。

以上の様に大変魅力溢れる『徳仙丈山』が身近に存在していますから、気仙沼に住むもっと多くの方々にこの山に親しんでもらいたいと思います。つつじの季節にはこそって登山してはいかがでしょうか。ぜひ関係各位に音頭をとっていただき、ゆくゆくは年中行事の『市民のお祭り』にしていきたいと思います。

それには、シーズン中の輸送手段、道路や駐車場の整備等解決すべき課題は多いと思いますが、市民の健康増進と観光客誘致等、市の活性化にも繋がる事と考えますので、実現の為宜しくご検討をお願いいたします。

(おがた・まさし) 昭和20(1945)年生まれ。気仙沼の風景画などを描き、2008年上野の森美術館主催「アトリエ展」入選。銀座、上野の画廊で個展を開催。

## この夏の出来事

小山 利英子

わたくしごとで大変、恐縮です。

この夏、結婚をいたしまして、東京にて友人をお招きしてのパーティを開催いたしました。

普通は旦那さんを立てるそうですが、無礼にも私の方の来客が多い会になりました。もちろん気仙沼出身者、気仙沼からわざわざ駆けつけてくださった同級生もいますから、気仙沼パワー全開。

私が親しくさせていただいている方々は年齢も様々、経歴も様々です。

共通しているのは本当に良い方ばかりで、こんな中年新婚の私どもを盛り上げてくださり、会場はとても暖かい空気です。

さて、お酒も進んだ頃に気仙沼の同級生らが「なにかやる」というので、「なにやんだべ?」と思ったら、なんとした、気仙沼音頭です!

いつの間に用意してくれたのでしょうか、同級生らはハッピーを着て、あっという間に輪が出来ました。

準備の間に、司会からコメントを求められた私が「気仙沼人なら、みな踊れます」としゃべったようです。

その言葉通りに、同級生以外にも気仙沼出身は次から次に輪の中へ。

最初は見ていようと思った私も、ウエディングドレスで輪の中へ、それを見たダンナも私の後ろに。そして、気仙沼以外の方々もドンドン輪の中に。輪は徐々に大きくなって、それはもう、最も記憶に残るシーンになりました。

最近の若い方には「はまらいんや」の方が馴染みがあるようですが、我々年代で気仙沼を離れた者にとって気仙沼音頭は、あの前奏が流れただけで、身体が勝手に反応します。「気仙沼音頭」も「はまらいんや」もどちらもそうですが、気仙沼人で

あれば誰もが知っている共通の演目があるということは、とても誇りに感じました。

東京出身の方が言ってらっしゃいました。「東京出身でも東京音頭は踊れない」と。「気仙沼はすごいね」と。

なにしろ世代も性別も越えて「気仙沼」というだけで踊り始めるのですから、それはたいそう驚かれました。

「なぜ、全員踊れるのか?」と何人もの方から聞かれました。

だって、小学生から運動会でやっていたから、誰でも踊れますよね。逆に「東京では運動会などでやらないのですか?」と聞き返しました。東京以外の出身の方もみな驚いていましたので、これは気仙沼独特であったのかと気付いた次第です。

気仙沼人にとって「あたりまえ」と思うことが、実は特殊で、それは大切なことなんだと改めて感じた瞬間です。

これからも地元の皆さんを中心に「打ちばやし」「大はまらいんや踊り」そして「気仙沼音頭」も盛り上げて欲しいと、地元の皆さんに感謝の気持ちを込めつつ思いました。これは本当に誇れる貴重な文化財です!この財産を観光などに活かせるといいですね。

# 「クラウド・コンピューティング」の 地方自治経営への展開に思う

キーワード  
「クラウド」

大森 郁夫

日本経済の再生・活性化の姿、あり方、道筋についてさまざまな視点から議論が盛んである。

その焦点は、さまざまな営みの道筋（経＝みちすじ、営＝いとなみ、⇒経営）を定め、あるべき将来像を描き実現することが役割である政府政策も勿論であるが、中央と地方の所得格差や財政難にある地方自治体の行政（経営）のあり方も問われているところにある。

地方行政（経営）は、本来、一年一年はその成果が見えないが、10年後20年後の地方産業のあり方、地方文化のあり方などを描いて、生活者の物心両面での豊かな生活を築く政策の着実な実行にある。現実には、今日的課題への効率的・効果的対応に注目されがちであるが、部分最適・現在最適より長期最適・将来最適に注目し、あるべき姿を描き実行していく必要がある。

また、中央と地方の所得格差はよく話題にあがるが、所得格差を拡大している要因でもある情報格差についてもっと議論されるべきであり、情報格差を解消せずして所得格差や文化的格差は解消されない。

情報化社会すなわち情報ネットワークのIT技術活用の世界では「クラウド・コンピューティング」の発展と活用について注目されている。政府は、2009年度の補正予算として「電子行政クラウドの推進（霞ヶ関・自治体クラウド及び国民電子私書箱構想の推進）」に約200億円を投じ推進・実現の途上にある。また、2011年度の総務省の概算予算要求案では「クラウド自治体の推進とその基盤構築と実証実験」予算として約16億円を計上している。

電子自治体の推進この目的は、クラウド・コン

ピューティング技術を活用して、

- ①関係府省の業務システムのハードウェアの統合や共通機能のプラットフォーム化を図ること
- ②中央省庁のバックオフィス・システムをデータセンターに集約すること
- ③自治体クラウドを推進し行政コストの大幅な圧縮、行政サービスの質の向上にある。

注目すべきは、縦割り意識の強い省庁で統一のデータセンターの活用の方向に進むという方向を目指していることにもある。

クラウド・コンピューティングとは、個々のパソコンで行っている情報処理を、インターネットを通じて外部のサーバーに行わせる方法であり、情報処理がネットワークの向こう側、つまり「雲」の中で実行されるという、まさに「クラウド（雲）＝インターネットを通じた巨大なサーバー」＋コンピューティング＝情報処理」という世界である。

クラウド・コンピューティングのメリットは、

- ①所有から利用へのパラダイムシフトにより、多く資金と資産負担（固定費負担）から開放され、費用の変動費化がはかれる
  - ②統一システムの使用によりコストダウンが図れる
  - ③アプリケーションのバージョンアップの手間とコストが大幅に省ける
  - ④統一システムにあわせて業務を遂行することにより、目的が明確でない業務の廃止、無駄の削除が可能になる
- などがあげられる。

情報化社会を先導するIT技術は、この40年間で個別IT技術の革新的発展とその有機的結合により、当初誰もが予測しえなかった方向へと進

化している。この技術革新が社会科学の世界も変化させ、社会のあり方、産業のあり方、個々人の生活は勿論のこと、これらを統合しあるべき方向を構築する役割りを担っている行政のあり方にも変革を迫っている。

一方、地方自治体は、将来のあるべき社会（産業の育成・新興、文化の創造、豊かな生活）を構築することに行政の経営資源を重点配分するという、目的的で、効果性のある「自治体づくり活動」に重点をおいた戦略的行政活動が期待されている。

「クラウド・コンピューティング」は、経常的業

務の標準化と効率化を推進し、情報公開による市民と一体となった「将来最適」の社会構築のための活動の基盤作り、ベンチマークとなる他の地方自治経営実態や産業育成・振興に関する情報の収集と活用、自治体の産業発展ための情報発信には欠かせない情報システムとなる。

将来の地方自治体経営、すなわち「邑（小さい国都）づくり」のあるべき姿をしっかりと描いておくとともに、政府の進めている「自治体クラウド実証実験」に関心を持ち、その導入・実現の方向を考察しておく必要がある。

（おおもりのい） 昭和 16（1941）年生まれ。中小企業診断士。

## 地域活性化研究会 気仙沼ビューロー支援者

当団体をご支援いただく方々をご紹介します。（2010年9月現在 / 順不同 / 敬称略）

白井賢志	気仙沼商工会議所会頭	菅野卓夫	(株)気仙沼青果物流通市場 代表取締役社長
斉藤徹	気仙沼市観光コンベンション協会会長	佐藤雄二	(株)カネダイ 代表取締役専務
足利健一郎	(株)足利本店 代表取締役社長	内海哲郎	(有)菓子舗うつみ 代表取締役社長
川村賢壽	(株)かわむら 代表取締役社長	馬場国昭	(有)からくわクリーン 代表取締役
亀谷寿朗	福德漁業(株) 代表取締役社長		

## 地域活性化研究会 気仙沼ビューローについて

当団体は気仙沼地方と縁を持つ者たちが、それぞれが得意とする分野からの提言や活動を行い、気仙沼地方の発展に寄与できることを目指し、平成20年11月に設立されました。今後、テーマを絞った提案や勉強会を行う予定ですが、まだ設立されたばかりで夢は膨らむばかりです。気仙沼地方が未永く発展できるよう、外部からサポートできる最大限の事業をすすめていきたい、そんな風に考えております。

なお、参加資格はありません。気仙沼へ思い入れを持つ方であればどなたでも参加になれますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【参加メンバー】（2010年9月15日現在 ☆印：新メンバー）

吉田利輝男	千葉一宏	佐藤則好	高濱悟
小山智善	佐々木栄作	近藤章	小山利英子
小野寺徹也	尾形将	大森郁夫	川村浩
畠山信彦	貝塚文一郎	村上洽視	畠山明
中村勝子	日出英輔	坂井素美	岩手裕美子
佐藤晴男	畠山朔男	菅原洋道	佐藤恭子
			武山健自